

『中の根本の言葉を章とした知慧（根本中論）』

（第十三章）

世尊が、「法（現象）であり、欺くものは偽りである。」と説かれた。一切の行は欺く法（現象）である。然れば、それらは偽りである。 1

もし、欺く法（現象）であるもの、それが偽りであることにおいて、何を欺こうか。世尊がそれを説かれた。空性を全く示されたのである。 2

諸事物は自性が無い。他に変化することが現れる故である。事物は無自性が無い。何故ならば、諸事物は空性である故に。 3

もし、自性が無ければ、他に変化するものは、何のものであるか。もし、自性が有るならば、他に変化すると如何様に適おうか。 4

そのものにおいて、他に変化することは無い。他そのものにおいても、有るのではない。何故ならば、若者は老いず、何故ならば、老いた者も老いない。 5

もし、それ自体が他に変化するならば、乳そのものが、ヨーグルトになるだろう。乳より他である何が、ヨーグルトという事物であるとなろうか。 6

もし、空でないものが僅かに有るならば、空も僅かに有るとなるだろう。不空が僅かにも有るのではないなら、空も有ると、何処でなろうか。 7

勝者方の空性は、全ての見解より出離すると説かれた。空性を見解とする者達は、成就しようがないと説かれた。 8

「欺く法（現象）は偽りである。」と、世尊がそう説かれた。一切の行は欺く法（現象）である。然れば、それらは偽りである。（仏）

諸事物は自性が無い。他に変化することが現れる故である。自性が無い事物は無い。何故ならば、諸事物は空性である故に。（3・仏）

諸事物は自性が無い。他に変化することが現れる故である。事物は自性が無い。何故ならば、諸事物は空性である故に。（3・顕）

もし、自性が無ければ、他に変化するものは、何のものであるか。もし、自性が有るならば、如何様であれば、他に変化しようか。（仏・顕）

もし、それ自体が他に変化するならば、乳そのものが、ヨーグルトになるだろう。乳より他である何の、ヨーグルトという事物であるとなろうか。（仏）

勝者方が、空性は、全ての見解を根絶すると説かれた。空性を見解とする者達は、成就されようがないと説かれた。（仏）

「行（作用）を考察する」という第十三章の解説である。

（第十四章）

視られる対象と、視ると、視る者の、
それら三つの二つずつと、
一切も、互いに
会合したとなることは、有るのではない。 1

その如く、貪欲と欲す者と、
欲される対象を視たまえ。
諸々の残りど、處の
残りも、まさしく三様相によってである。 2

他と他として会合したとなれば、
何故ならば、視られる対象等として、
その他は有るのではない。
それ故に、会合したとはならない。 3

視られる対象等のみに、
他そのものが無いだけではない。
何であろうとも、何かと一緒にありながら、
まさしく他であるとは不合理である。 4

他は、他に依拠して他である。
他無くして、他は他にはならない。
何かに依拠して、何かである。
それは、それより他であるとは不合理である。 5

もし、他が、他より他であるならば、
その時、他が無くして他となる。
他が無くして他になるものは、
有るのではない。それ故に無い。 6

他性は、他に有るのではない。
他でないものにも、有るのではない。
他性が有るのでなければ、
他か、そのもの（自性）は有るのではない。 7

それは、それと会合したことは無い。
他と他も、会合したとならない。
会合しつつあると、会合と、
会合する者も有るのではない。 8

その如く、貪欲と欲す者と、
欲すとなるものと、煩惱の
諸々の残りど、處の
残りも、三様相によって見たまえ。(仏)

他が、他と会合したとなれば、
何故ならば、視られる対象等として、
その他は有るのではない。
それ故に、会合したとはならない。(仏)

他は、他に依拠して他である。他無く
して、他より他にはならない。何かに
依拠して、何かである。それは、それ
より他であるとは不合理である。(仏)

もし、他が、他より他であるならば、
他が無くとも適するとなるだろう。
他より他である他であり、
無ければ無いので、それ故に無い。(仏)

根本中論

「会合を考察する」という第十四章である。

※（仏）は、『根本中論』チョコロ訳（『ブツダパーリタ』に引用された旧訳）で、パツァブ訳（新訳）と異なる記述。

（顕）は、パツァブ訳（新訳）ではあるが、『根本中論』本論と記述が異なる『顕句論』で引用された偈を示す。

DECHEN 訳